

●三位一体後第三主日

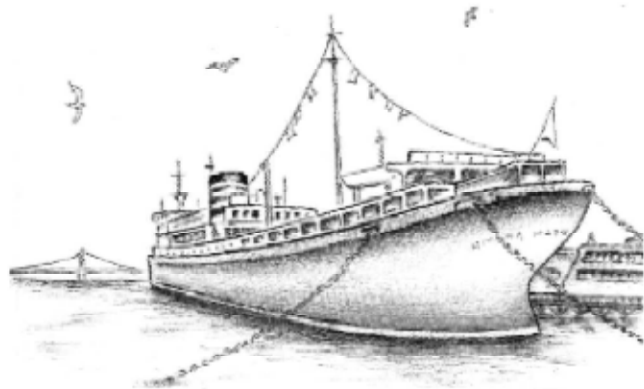
# 泉のほとり

今日の詩篇 第一二編

主よ、あなたはその仰せを守り

この代からとこしえに至るまで

わたしたちを見守ってくださいます。



## 真の命を得るために

聖書はわたしたちと主イエスの関係をいろいろに言い表しています。一番の基本は、主と僕です。僕とは奴隷のことです。奴隷は金で売買されます。わたしたちは代価を払って買い取られたのです。奴隷は主人の持ち物です。主人に服従して、自分の意思とか自由を持ちません。でも不思議なことに、主に服従するとき、わたしたちは自由になります。実はわたしたちは、自分が自由だと思っている時に、自分の欲望や世の風潮の奴隷になっているのです。主の僕は、そこから解放されるのです。

次は先生と弟子です。弟子は先生のようにになりたいと思い、その真似をします。音楽家は、誰に師事したかによってその人の音楽が決まるので、その人の演奏を聴けば、誰の弟子であるかがわかります。同じように主の弟子も、その生き方を見れば、主の弟子であることが、明らかになります。

次は羊飼いと羊です。羊飼いは自分の羊を知っていて、その名を呼んで連れ出します。羊も羊飼いを知っていて、ついて行きます。他の声にはついて行きません。この羊飼いが、自分に命の水と食べ物を与えてくださることを、知っているからです。

最後はぶどうの木とその枝です。ぶどうの幹には葉も実もつきません。そこから伸びた枝が葉と実をつけるのです。枝が幹につながっていれば、

実を結びます。幹につながっておらず、そのために実を結ばない枝は、切り取られてしまいます。

そのようにわたしたちが主イエスの僕であり、弟子であり、羊であり、枝であるために、主イエスは多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活されました。それ以外に、わたしたちが罪を赦されて、主イエスに連なるものになる道はないからです。

だからこそわたしたちも、主の僕であり、弟子であり、羊であり、枝であるために、自分の十字架を負って主に従わなければなりません。主イエスにとつてそれ以外の道はなかったように、わたしたちにとつても、それ以外の道はないのです。

十字架は、自分をはりつけにするものです。奴隷として主人に仕えるために、弟子として先生の真似をするために、羊として羊飼いに従い、ぶどうの枝として実を結ぶために、わたしたちはしばしば自分を殺さなければなりません。わたしたちが負う十字架は、そのためのものです。

しかし、それこそが、わたしたちを生かす道です。自分の欲望に支配され、世の風潮に流される人生に実りはありません。だから、自分で自分を生かしたいと思う者は命を失い、自分で生きることを放棄して、主に命を委ねる者が、それを得るのです。

(ルカ九・一八〜二四)

## 祈り

○主イエス・キリストの父である神よ。涙の時があり、喜びに叫びを上げる時もありました。悲しみを心に染み込ませるようにして歩いた時もあり、喜びで踊るよう歩いた歩みもありました。それらすべての歩みがあなたの御心のうちに数えられ、あなたが見守る歩みであり、あなたが滑り倒れるのを許さなかつた歩みであったことを、今このとき、ここに集まり、改めて思い起こして、感謝いたします。

自分がこのように生かされていることに、驚きをさえ覚えるものです。自分の健康を氣遣い、人と共に生きるとき、自分の心の弱さを思い、どれだけこの人生に耐えうるかと思う時、あなたが生きる力を与えてくださいました。わたし共の目があなたを仰ぎ見ることを忘れ、遠ざゆくものに目が奪われてしまつて居る時にも、あなたはわたし共を見つめていてくださいました。あなたがわたし共を導いてくださったからこそ、この朝、ここに來ることができました。

家族の愛、友人たちの愛、職場や学校の仲間たち、わたし共の先に立つ者、後についてくる者たちによって、どんなに慰められ、支えられ、助けられてきたかを思うものであります。あなたの愛と隣人の愛との間に生かされる感謝の心を、

そして感謝から生まれる喜びに生きる思いを、今ここに新たにさせてくださいますように。

わたし共は感謝に鈍い罪を犯すものです。恵みを教えるよりも、与えられていないものを数えてつぶやくものです。どうぞ、そのような愚かさに勝ち、今、生かされている人のいのちを尊く受けとめ直すことができますように。そのために必要な御言葉を、御言葉を、今、豊かにお与えくださいますようにお願いいたします。

この祝福の支えを必要としている者がどんなに多くあることかと思ひます。病床に耐えている者に、もうこの会堂に來ることができないことを覚悟しながら信仰に生きて居る人びとに、あなたの慈めがありますように。

この世界にどんなに多くの悩みが溢れているかと思ひます。その中に立つ教会を、大小を問わず、貧富を問わず、あなたの御心が行われるための器としてこれを築め用いるために願ひてくださいますように。わたし共の教会がこの街にあつて、この国にあつて、主のわざを言葉と行いをもつて証しし続ける群れとなることができますように。わたし共の小さなわざを通じて、この街、この国に生きる人びとが主の祝福にあずかることができますように。

主イエス・キリストの御名によって、感謝し、祈り願ひます。アーメン

(加藤常昭、み前にそそぐ祈り、より)

## 今日のお知らせ

○古村牧師は今日から六日まで韓国へ出張します。今日は午後、サラン教会の日本語礼拝で説教をします。そのために、今日の第一礼拝は前副牧師、第二礼拝は宮間神学生が説教をします。

○第一礼拝後、教会学校と並行してロビーでのコーヒーサービスと、園舎二階リズム室では、「ぶどうの会」が開かれます。どうぞご参加ください。

○第二礼拝後、ホールで、讚美と報告の会をします。お昼はお弁当です。

○引き続き、教会員懇談会を開いて、一〇月に行われるバザーについての相談をします。教会員はお集まりください。

○四日(火)午後七時から、コイノニアキャンプ参加者の準備会をホールで行います。キャンプ参加者はお集まりください。

○七月二〇日(日)一回礼拝後、教会研修会を行います。現行の奉仕体制を見直すという課題を一緒に考え、取り組む大切な研修会です。教会員はご参加ください。状態しに案内と申込書が配布されていますので、ご覧いただいで、参加申込みをしてください。

○次週九日は諸聖徒記念礼拝です。すでに天に帰られた諸聖徒を記念し、わたしたちも天に帰る望みを与えられていることを感謝して礼拝をします。



## 第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 讃21 205番

讃21 393番

説教 「弟子になるために」

聖書 ルカ9章51～62節 (新約P124)

司式 森 洋之兄

説教者 聖餐司式 黄 允湜 副牧師

前奏曲「前奏曲ニ長調」A.ドヴォルザーク

○讃美歌 21 205番

1. 今日<sup>今日は</sup>は光<sup>光</sup>が 造<sup>つく</sup>られた日<sup>日</sup>  
闇<sup>やみ</sup>の中<sup>なか</sup>にも 「光<sup>ひかり</sup>かがやけ」

2. 今日<sup>今日は</sup>は聖<sup>せい</sup>なる 安<sup>やす</sup>息<sup>いき</sup>の日<sup>日</sup>  
疲<sup>つか</sup>れた心<sup>こころ</sup> 新<sup>あたら</sup>たにさ<sup>さ</sup>れる

3. 今日<sup>今日は</sup>は平<sup>へい</sup>和<sup>わ</sup>が 満<sup>み</sup>ちあ<sup>あ</sup>ふれる日<sup>日</sup>  
あ<sup>あ</sup>らそい騒<sup>さわ</sup>ぐ 波<sup>なみ</sup>もしず<sup>ず</sup>まる

4. 今日<sup>今日は</sup>はみ<sup>み</sup>神<sup>かみ</sup>に 共<sup>とも</sup>に祈<sup>いの</sup>る日<sup>日</sup>  
心<sup>こころ</sup>を高<sup>たか</sup>く み<sup>み</sup>前<sup>まへ</sup>に上<sup>あ</sup>げよう

5. 今日<sup>今日は</sup>は主<sup>きり</sup>イエ<sup>す</sup>スの よ<sup>よ</sup>みがえ<sup>え</sup>りの日<sup>日</sup>  
われ<sup>われ</sup>らを生<sup>な</sup>かす 愛<sup>あい</sup>をた<sup>た</sup>えよ

○オルガンによる讃美

「あうれし我が身も」讃美歌529番 D.ケッ

○讃美歌 21 393番 (3面に楽譜があります)

1. 此<sup>こゝろ</sup>を 一<sup>いつ</sup>つに 平<sup>へい</sup>和<sup>わ</sup>を求<sup>もと</sup>め  
主<sup>きり</sup>を愛<sup>あい</sup>する愛<sup>あい</sup> 明<sup>あ</sup>るく燃<sup>も</sup>やそ<sup>そ</sup>う  
主<sup>きり</sup>はぶ<sup>ぶ</sup>どうの幹<sup>み</sup>、われ<sup>われ</sup>らそ<sup>そ</sup>の枝<sup>え</sup>  
主<sup>きり</sup>はわれ<sup>われ</sup>ら<sup>ら</sup>のもの、われ<sup>われ</sup>ら主<sup>きり</sup>のもの

2. 恵<sup>めぐみ</sup>の子<sup>こ</sup>たちよ、交<sup>まじ</sup>わり深<sup>こ</sup>め  
愛<sup>あい</sup>とま<sup>ま</sup>こととを 互<sup>たが</sup>いに誓<sup>ちか</sup>おう  
われ<sup>われ</sup>ら<sup>ら</sup>のき<sup>き</sup>ずなが 弱<sup>よ</sup>まる時<sup>とき</sup>も  
強<sup>つよ</sup>めてく<sup>く</sup>ださい、主<sup>きり</sup>の愛<sup>あい</sup>によ<sup>よ</sup>り

3. 主<sup>きり</sup>はわれ<sup>われ</sup>ら<sup>ら</sup>のため 苦<sup>くるしみ</sup>を受け  
そ<sup>その</sup>の友<sup>とも</sup>のため<sup>ため</sup>に 命<sup>いのち</sup>を捨<sup>す</sup>てた  
われ<sup>われ</sup>らも互<sup>たが</sup>いに ま<sup>ま</sup>こと<sup>こと</sup>の愛<sup>あい</sup>を  
兄<sup>あに</sup>弟<sup>てい</sup>姉<sup>せ</sup>妹<sup>まい</sup>と 共<sup>とも</sup>に分<sup>わ</sup>け合<sup>あ</sup>おう

4. 分<sup>わか</sup>れた民<sup>たみ</sup>が 一<sup>いつ</sup>つにさ<sup>さ</sup>れる  
そ<sup>その</sup>の日<sup>ひ</sup>が来<sup>き</sup>るのを われ<sup>われ</sup>ら<sup>ら</sup>は望<sup>のぞ</sup>もう  
主<sup>きり</sup>の光<sup>ひかり</sup>を受け そ<sup>その</sup>の輝<sup>かがや</sup>きを  
世<sup>よ</sup>界<sup>かい</sup>に示<sup>し</sup>そう、主<sup>きり</sup>の弟<sup>てい</sup>子<sup>こ</sup>として

## 第二礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 70番 247番

詩編 第12篇 (旧約P843)

説教 「失われたものを獲して救うために」

聖書 ルカ19章1～10節 (新約P146)

司式 森 洋之兄 聖餐司式 黄 允湜 副牧師

説教者 宮間 彰宏 神学生

前奏曲「いと高きにある神にのみ栄光あれ」J.S.バッハ

○讃美歌 70番

○オルガンによる讃美

「あうれし我が身も」讃美歌529番 D.ケッ

○聖歌隊による讃美

「主は歌わせたもう」M.シャープ

心<sup>こころ</sup>にひとつメロディー 主<sup>きり</sup>が与<sup>たま</sup>えられた  
「恐<sup>おそ</sup>れること<sup>こと</sup>はない、私<sup>わたし</sup>が其<sup>その</sup>に<sup>に</sup>いる」

心<sup>こころ</sup>の痛<sup>いた</sup>みに 主<sup>きり</sup>がふ<sup>た</sup>れてく<sup>く</sup>ださる<sup>まで</sup>

歌<sup>うた</sup>はか<sup>か</sup>れて<sup>いた</sup> だ<sup>だ</sup>が私<sup>わたし</sup>に<sup>に</sup>また

新<sup>あたら</sup>たな歌<sup>うた</sup>が ほ<sup>ほ</sup>め歌<sup>うた</sup>が<sup>が</sup>ひび<sup>ひ</sup>いた

主<sup>きり</sup>イエ<sup>す</sup>スわ<sup>が</sup>が主<sup>きり</sup>よ歌<sup>うた</sup>与<sup>たま</sup>え 導<sup>みち</sup>き共<sup>とも</sup>に歩<sup>あ</sup>まれる

主<sup>きり</sup>の愛<sup>あい</sup>の豊<sup>とよ</sup>かさ<sup>は</sup> 安<sup>やす</sup>らぎ<sup>を</sup>与<sup>たま</sup>え

御<sup>ご</sup>顔<sup>がほ</sup>のほほ<sup>ほ</sup>えみ 力<sup>ちから</sup>をく<sup>く</sup>ださ<sup>る</sup>

主<sup>きり</sup>イエ<sup>す</sup>スわ<sup>が</sup>が主<sup>きり</sup>よ 御<sup>ご</sup>名<sup>な</sup>を<sup>を</sup>た<sup>た</sup>え<sup>ます</sup>

主<sup>きり</sup>イエ<sup>す</sup>スわ<sup>が</sup>が主<sup>きり</sup>は 歌<sup>うた</sup>与<sup>たま</sup>え 導<sup>みち</sup>き共<sup>とも</sup>に歩<sup>あ</sup>まれる

深<sup>こ</sup>い水<sup>みづ</sup>の底<sup>そこ</sup>にも 険<sup>険</sup>しい道<sup>みち</sup>ゆく時<sup>とき</sup>も共<sup>とも</sup>にお<sup>お</sup>られる

約<sup>やく</sup>束<sup>そく</sup>我<sup>われ</sup>ら信<sup>しん</sup>じ 歩<sup>あ</sup>もう<sup>う</sup>どこ<sup>こ</sup>ま<sup>ま</sup>でも

主<sup>きり</sup>イエ<sup>す</sup>スわ<sup>が</sup>が主<sup>きり</sup>よ 御<sup>ご</sup>名<sup>な</sup>を<sup>を</sup>た<sup>た</sup>え<sup>ます</sup>

主<sup>きり</sup>イエ<sup>す</sup>スわ<sup>が</sup>が主<sup>きり</sup>よ

ゆ<sup>ゆ</sup>く道<sup>みち</sup>を<sup>を</sup>導<sup>みち</sup>き 歌<sup>うた</sup>を<sup>を</sup>与<sup>たま</sup>え<sup>ます</sup>歩<sup>あ</sup>ませ<sup>たま</sup>え

○讃美歌 247番

聖餐曲「アゲージョ」C.M.ガイドール

後奏曲「メック氏による協奏曲」J.G.ワグネル

聖餐曲「アングレット」E.ゲラッドス

後奏曲「メック氏による協奏曲」J.G.ワグネル

※礼拝には、聖書、讃美歌、礼拝のしおりを毎週お持ちください。